

感染性胃腸炎について

新潟県福祉保健部健康対策課

1 流行状況

- 平成 31 年第 3 週の感染症発生動向調査（サーベイランス）において、感染性胃腸炎の定点当たり報告数は全県で **4.70** となっており、先週の **3.75** から増加しました。
- 例年、冬から春はノロウイルスによる食中毒が多発する時季です。調理や食事の前には十分に手を洗うなど、引き続き予防を心がけましょう。

2 感染性胃腸炎とは（原因となる主なウイルス等）

	ノロウイルス	ロタウイルス
主な症状	嘔吐、下痢、腹痛、軽度の発熱など	嘔吐、下痢、腹痛、発熱
潜伏期間	1～2 日間（平均 36 時間）	1～3 日間（平均 48 時間）
経過	通常、3 日以内で回復	通常、嘔吐は 1～2 日、下痢は 1 週間程度で回復
流行する世代	全ての世代で発生	乳幼児を中心に流行し、まれに成人でも集団発生が起こる
治療	特効薬はありません。乳幼児のロタウイルス感染では重症化することがあります。嘔吐や下痢で脱水症状を起こしやすいため、水分補給をしましょう。	

3 予防方法

- 石けんを用いた流水による手洗いを徹底しましょう。特に排便後、おむつ交換後、また調理や食事の前には十分に手を洗いましょう。
- 便や吐物を処理する時は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんを用いた流水で十分に手を洗いましょう。
- カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう。（中心温度 85～90℃で 90 秒以上の加熱が必要です）

4 学校保健安全法における扱い

- その他の感染症（第三種感染症として扱う場合もある）と定められています。
- 症状のある間が主なウイルスの排出期間なので、下痢、嘔吐症状が軽減した後、全身状態のよい者は登校（園）可能ですが、手洗いを励行することとされています。

5 県内における胃腸炎患者等から検出された病原体（起因ウイルスの種類と型別）

検体採取月	胃腸炎の集団発生事例の病原体検出結果						感染症発生動向調査の病原体検出結果					
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
	検出事例数						検出患者数					
	1	0	0	2	1	0	15	4	3	13	6	0
	ウイルス検出数						ウイルス検出数					
ノロウイルス	4			5	3		6			2	1	
GI. 2												
GI. 4							1					
GI. 5												
GI. 7				1								
GI. NT												
GI. 2				4	3		3			1	1	
GI. 4							2			1		
GI. 8												
GI. 14	2											
GI. 17												
GI. NT	2											
サポウイルス										1		
アデノウイルス							2	2	4	3		
パレコウイルス							4	2	1			
アストロウイルス							3	3	5	3		
A群ロタウイルス												
コクサッキーウイルス							2			1		
エコーウイルス										1		

※一事例又は同一患者から複数のウイルス、型の検出あり